

研究主題

中学校における

「考え、議論する」道徳科授業の在り方に関する研究

—道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりを通して—

【研究担当者】 恩田 弥生

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

1 はじめに

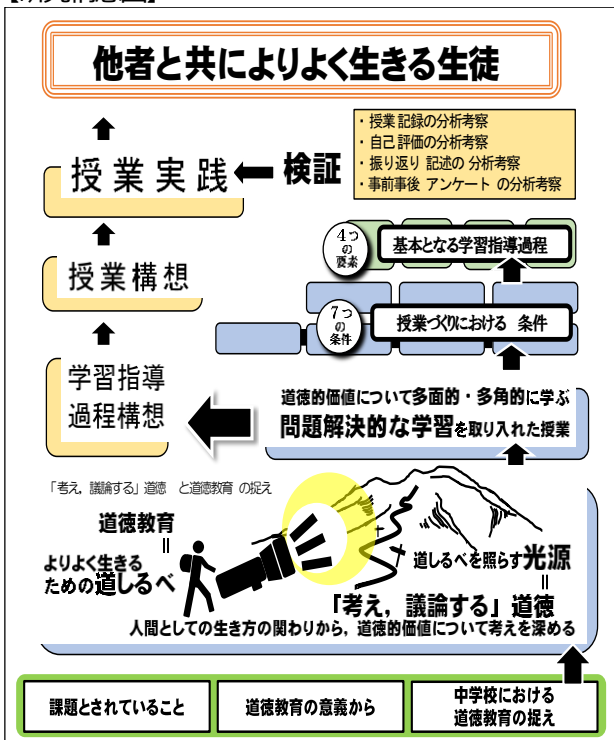
本研究は、他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うことを目的としています。そのため、道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業における条件、基本となる学習指導過程を作成しました。

2 道徳教育と道徳科について

道徳教育は、人間が本来もっているよりよく生きたいという願いや、よりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、人間としての生き方についての自覚を深めるものであると考えます。

道徳教育の要である道徳科において、道徳的価値に根差した問題に対して、人間としての生き方の関わりから、自分なりの解決策を選択・決定することで、よりよく生きるための見通しをもつことができると考えます。そこで、道徳教育を道しるべ、その道を明るく照らす光源が「考え、議論する」道徳であると捉え、研究を進めました。

【研究構想図】



【問題解決的な学習を取り入れた授業実践一覧】

実践 1	教材名 だれを先に乗せる？ 出典 NHK for school ココロ部！ 主題名 思いやる相手について考える	B 思いやり、感謝
実践 2	教材名 裏庭のできごと 出典 学研「かけがえないきみだから1年」 主題名 正しいことを正しいと言うには	A 自主、自律、自由と責任
実践 3	教材名 サルも人も愛した写真家 出典 NHK道徳ドキュメント1 キミならどうする 主題名 命あるものとの向き合い方について考える	D 生命の尊さ
実践 4	教材名 釣りざおの思い出 出典 学研「かけがえないきみだから1年」 主題名 自分をコントロールするには	A 節度、節制

3 「考え、議論する」道徳科授業について

道徳科の授業では、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要とされています。そこで、「考え、議論する」道徳を次のように捉えました。

● 「考え、議論する」道徳とは

「考え、議論する」道徳とは、一人一人の生徒が、道徳的価値に根差した問題について、自分がどのように感じたり考えたりするのかを「考え」、異なる意見をもつ他者と「議論する」ことで多様な感じ方や考え方に会い、人間としての生き方との関わりから道徳的価値について考えを深めることによって、よりよく生きるための見通しをもつこと。

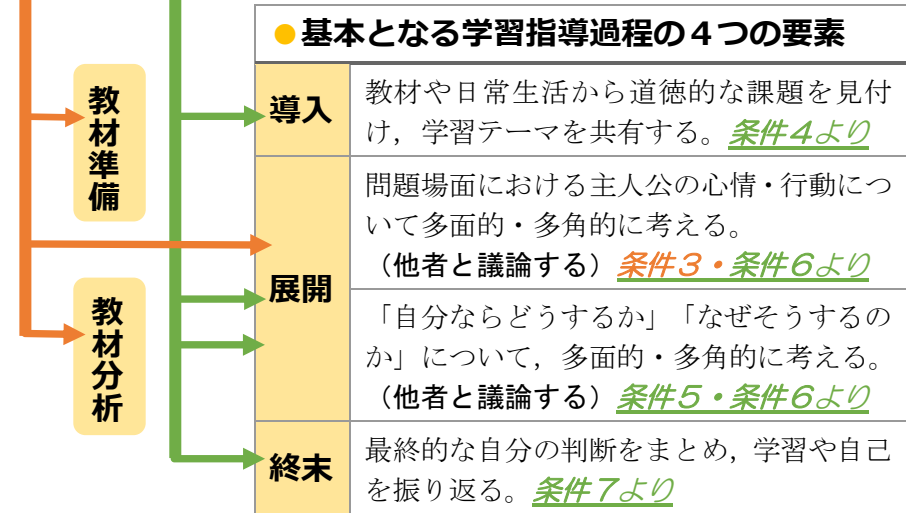
「考え、議論する」道徳科授業の実現のために、授業の中に「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する場面を設定した問題解決的な学習を取り入れることが考えられます。道徳的価値に根差した問題が含まれる教材を、「私たちの道徳」や副読本、映像教材などから取り上げ授業実践を行いました。

3 授業づくりにおける条件と基本となる学習指導過程について

多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を実現するために、多様な感じ方や考え方に会い、他者と協働して考えることによって、人間としての生き方の関わりから道徳的価値の理解を深めたいと考えました。そこで、授業づくりにおける条件と、基本となる学習指導過程を次のようにまとめました。

● 授業の準備段階の条件	
条件 1	学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題のある教材を準備すること。
条件 2	多面的・多角的な視点から、問題に対する教材分析を行うこと。
条件 3	多面的・多角的な視点から、解決すべき問題に対する心情や行動についての発問を用意すること。

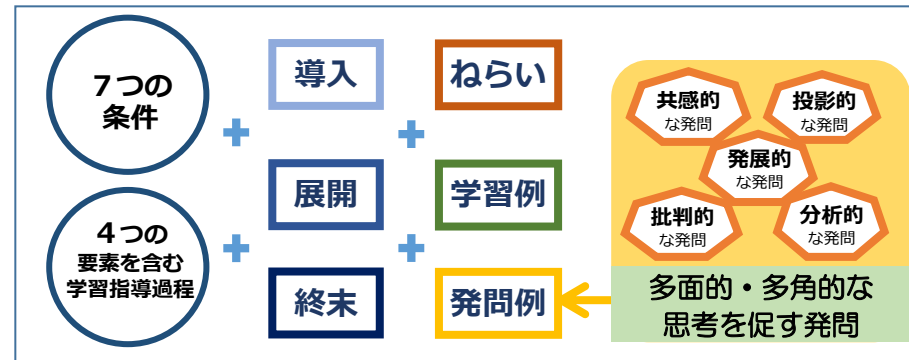
● 授業場面の条件	
条件 4	学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題について、問題意識をもたせる場面を設けること。
条件 5	「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を意思決定する場面を設けること。
条件 6	解決すべき問題や道徳的価値について、多面的・多角的に議論する場面を設けること。
条件 7	最終的な自分の判断をまとめ、これからの課題や目標を見付ける場面を設けること。



- 道徳的価値に根差した問題を見つけ、学習テーマを共有することで、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて **動機付けを図る**ことをねらっています。
- 他者と議論する場面を設けることで、多様な価値観の存在を認識し、さらに **自分の感じ方や考え方がより明確になる**ことをねらっています。
- これからの課題や目標を見付ける場面を設けることで、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような **内面的資質を高める**ことをねらっています。

4 基本となる学習指導過程と発問例について

本研究では、基本となる学習指導過程の4つの要素をそれぞれ導入、展開、終末に位置付けたものに、学習のねらい、学習例、多面的・多角的に考えるための発問例をまとめたものを作成し、授業実践で活用しました。



● 基本となる学習指導過程と発問例

【導入】 教材や日常生活から道徳的価値に根差した問題を見つけ、学習テーマを共有する。		
【学習例と発問例①】 本時の主題に関わる問題意識をもつ。 ～はどんなことが問題なのか。	【学習例と発問例②】 教材の内容に興味や関心をもつ。 ～という話題について考えてみよう。	【学習例と発問例③】 生活経験を振り返る。 ～したことがあるか。
共感的な発問 主として多面的な思考	分析的な発問 主として多角的な思考	批判的な発問 主として多面的な思考
【展開】 問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考える。		
【学習例と発問例④】 問題場面における主人公について考える。 主人公の行動や考え方について感じたことは何か。	【学習例と発問例⑤】 問題場面における主人公がとった行動の理由を考える。 主人公がそのように行動したのはなぜか。	【学習例と発問例⑥】 問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。 そのような主人公をどう思うか。
共感的な発問 主として多面的な思考	分析的な発問 主として多角的な思考	批判的な発問 主として多面的な思考
【展開】 「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について、多面的・多角的に考える。		
【学習例と発問例⑦】 問題解決に向かう主人公について考える。 主人公は、今どんなことを考えているか。	【学習例と発問例⑧】 問題を自分との関係で捉え、その解決に向けて考える。 ～のとき、自分ならどうするか。	【学習例と発問例⑨】 問題を自分との関係で捉え、自分の将来に生かす。 主人公の行動から、自分はどうしなければならないと思うか。
共感的な発問 主として多面的な思考	分析的な発問 主として多角的な思考	発展的な発問 主として多面的な思考
【終末】 最終的な自分の判断をまとめ、学習や自己を振り返る。		
【学習例と発問例⑩】 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。 ～はなぜ大切なのか。 ・本当の～とは何だろうか。	【学習例と発問例⑪】 これからの課題や目標について考える。 ・自分は～についてどう思うか。 ・これから～についてどうしていきたいか。	

5 授業実践と検証について

基本となる学習指導過程と発問例を活用し、授業実践、検証を行いました。アンケート結果や振り返りの記述から、議論することで、自分になかった考え方に気付いたことや、異なる意見に出会う意義を感じ、道徳的価値について自分の感じ方や考え方を明確にすることができたとと言えます。(授業→裏面下段、検証→裏面上段を参照。)

6 学習テーマについて

問題解決的な学習を取り入れた授業をつくる上で、学習テーマの役割は大きいと考えます。授業を通して、学習テーマについて考えたことで、自らの価値観を問い直し、道徳的価値を自分ごととして捉えることにつながりました。テーマには2つの分類があります。学習テーマの設定は、生徒の思考を導く上で重要な要素となったことが、振り返り記述から確認されました。(→裏面 下段を参照。)

7 成果について

「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について他者と議論することで、多面的・多角的な見方へと変容し、自己を深く見つめていくことが確認できました。また、問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件と基本となる学習指導過程を行うことで、これからの課題や目標を考え、よりよく生きるための見通しをもたせることができました。

授業の様子

「裏庭のできごと」

- 1 主題名 正しいことを正しいと言うには [自主、自律、自由と責任] (出典 学研「かけがえのないきみだから 1年」)
- 2 ねらい 正義と友情のはざまで悩み葛藤する健二の姿を通して、自ら判断し、誠実に実行しようとする心情を育てる。

展開【発問】
先生に言いに行こうとするが、行けない健二をどう思いますか。

2人がしたことは良くないことだけど、大輔が知らないところで話に行くのは大輔に悪い。

仕方ない

先に自分で言った方が罪も軽い、心も軽くなる。今は友情とかは関係ない。本当の友情じゃないと思う。

良くない

終末【発問】
正しいことを正しいと言うには、どんなことを大切にしたらよいだろうか。

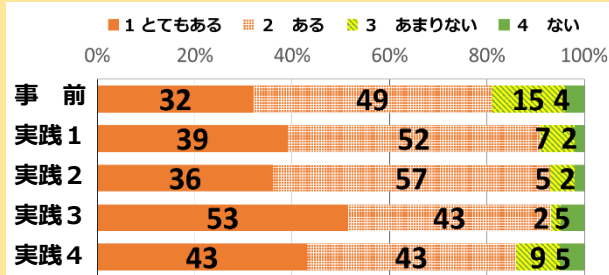
大輔に断ったら、謝りに行けると思う。正しいことを言えるようになるには、みんなの考えを尊重することが大切。色々な立場になって考えることが、一番良い方法を見つけるには大切だと思った。

悪いことをしてしまったら、友情や怒られるから嫌という気持ちを捨て、謝った方がいいと私は思います。でも、仕方ないと考える人の言葉を聞いて、そのような考え方も一理あると思いました。

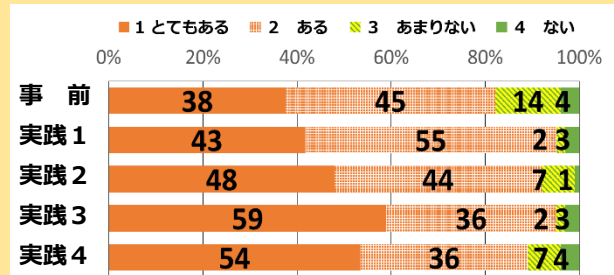
● 道徳的価値について人間理解の側面から理解を深めたことがわかります。

検証結果

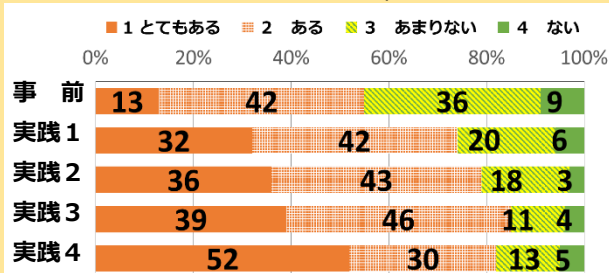
● 友達の意見を聞いて、自分にない考えに気付くことがある。



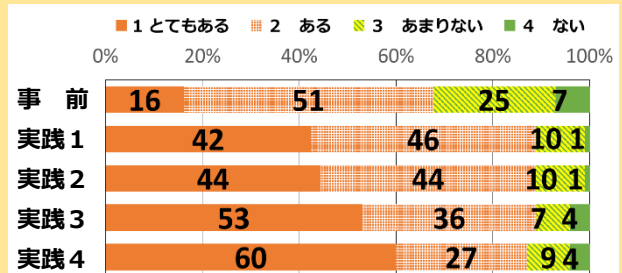
● 友達の意見を聞いて、なるほどと思うことがある。



● 今までの自分がどうだったかを思い出し、自分について考える。



● これからどのように生活していけばよいのかを考える。



生徒の記述 (抜粋)

- 道徳は、自分の中で答えをつくるものだと思っていました。でも、友達の意見を聞き、考えが変わったりしました。自分で答えをつくるのではなく、みんなで意見を言い合って作っていくものだと気付きました。
- 友達の意見を聞くとなるほどと思うことがありました。そこが、授業がより楽しくなるところで、道徳のいいところだなと思いました。
- 道徳は自分の心や行動を考えられる時間でした。自分ならどうするかなどたくさんの感情がわき、とてもいいイメージを自分にもてるようになりました。



学習テーマ

学習テーマの設定は、生徒の思考を導く上で重要な要素となることが確認されました。



～とは？



【学習テーマの例】

- ・ 本当の思いやりとは、どういうことなのだろう。
- ・ 伝統をまもるとは、どういうことだろう。
- ・ 命との向き合い方について考える。

- 道徳的価値について人間としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考えるテーマ。

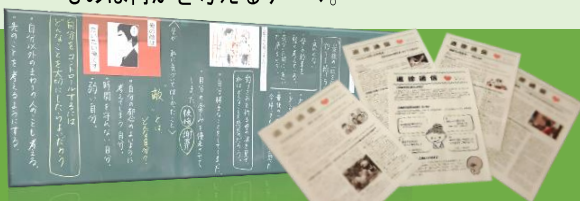
～には？



【学習テーマの例】

- ・ 弱さに打ち克つには。
- ・ 偏見をなくすためには、どうすればいいんだろう。
- ・ 正しいことを正しいと言うには。

- 道徳的価値の実現は容易ではないことを理解し、実現するために何を大切にしたらよいかを考えるテーマ。



研究報告書と補助資料は下記の
岩手県立総合教育センターの
Web ページに掲載しております。

<http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/172cd/h28tyou.html>